

数値予報モデル開発懇談会（第4回） 議事概要

1. 開催日時及び場所

日 時：令和元年12月17日（火）14:30～16:30

場 所：気象庁大会議室

2. 委員（※：当日欠席）

伊藤 耕介 琉球大学理学部物質地球科学科地学系 准教授

沖 理子 宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門地球観測研究センター
研究領域上席

佐藤 正樹 東京大学大気海洋研究所海洋地球システム研究系 教授、
同研究所地球表層圏変動研究センター 教授・センター長

竹見 哲也 京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門 准教授

坪木 和久 名古屋大学宇宙地球環境研究所統合データサイエンスセンター
教授・センター長

会長 新野 宏 東京大学 名誉教授

堀之内 武 北海道大学地球環境科学研究院地球圏科学部門 准教授

増永 浩彦 名古屋大学宇宙地球環境研究所気象大気研究部 准教授

三好 建正※ 理化学研究所計算機科学研究機構データ同化研究チームリーダー

渡部 雅浩 東京大学大気海洋研究所気候システム研究系 教授

3. 気象庁出席者

長谷川予報部長、弟子丸観測部長、大林地球環境・海洋部長、小泉参事官、

室井数値予報課長、横田気象衛星課長、藤川気候情報課長、

竹内気象研究所長、大野木気象研究所研究調整官

安田技術開発調整官（事務局）

4. 議題

（1）「2030年に向けた数値予報技術開発重点計画」の取組状況と課題

（2）重点目標達成のための部外連携の取組状況と課題

5. 委員からの主な意見

別紙参照。

委員からの主なご意見

【議題1】「2030年に向けた数値予報技術開発重点計画」の取組状況と課題

- 重点計画の開発線表は、同計画で示された開発の方向性を踏まえて作成されている。令和元年12月に現業化された全球全天輝度温度同化や全球解析ハイブリッド化はスタートとして非常に良い。今後、この開発線表に従って大学等研究機関と連携をして開発を進めていければよい。さらに、社会のニーズや最新の研究成果を踏まえつつ、開発線表を適切に見直すことが重要。
- 部外連携を必要とする技術開発の課題については、大学等研究機関との連携に結びつけるために、その背景を十分に理解してもらうことが必要。また、数値予報の改善においてどのような観測が重要なのか、大学等研究機関とも議論していく必要がある。
- 災害をもたらした事例について数値予報の検証を行い、新たな課題を掘り起こすことが必要である。さらに、社会にわかりやすい情報を出し、いかに利用してもらうかも重要であり、このような視点での数値予報モデルの改善も考えていく必要がある。

【議題2】重点目標達成のための部外連携の取組状況と課題

- 気象庁においては、大学等研究機関との連携に向けて、日本気象学会の集会での重点計画の説明やコロキウムの遠隔聴講の開始等の努力が見られる。具体的な共同研究課題の創出については、気象庁が持つ課題と大学等研究機関の研究とのマッチングのための意見交換を通じて、意思疎通を深めていくことが必要である。連携の枠組みについても、個別の共同研究の他、既存の連携協定や大学の共同利用拠点の活用等を検討することが重要である。
- 連携の推進には、大学等研究機関との人材交流による顔の見える関係の構築・維持や気象庁データの保存・公開の方針の明確化が有効である。また、気象庁数値予報モデルを利用する研究者同士が気象庁と独立に情報の蓄積・交換を行える仕組みを整えることは、大学等研究機関における同モデルの利活用及び気象庁へのフィードバックの促進に資する。
- 気象庁の数値予報現業モニター図や数値予報データを研究者へ共有する取り組み（令和2年度に計画）については、顕著現象等が発生した際に速やかに研究者が現象を理解し数値予報の課題を発見することができ、大学等研究機関との共同研究課題の創出にもつながるので、ぜひ進めてもらいたい。